

シンポジウム 13

あなたにもできる！臨床で浮かんだ疑問の解決法

【若手研究者育成委員会企画】

2026年9月11日(金) 9:00 – 10:30 | 第5会場 (3F 中会議室301)

座長 千葉 恒（長崎大学病院 整形外科）
坂本 優子（順天堂大学医学部附属練馬病院 整形外科）

コメンテーター 高土 祐一（福岡大学 内分泌・糖尿病内科学講座）／蛭名 耕介（大阪大学大学院 整形外科）／千葉 恒／坂本 優子

講演プログラム（全5題）

1-SY13-1 臨床研究は面白すぎる — 先人の知恵で楽に最初の一步を踏み出す方法

蛭名 耕介 ほか（大阪大学大学院医学系研究科 整形外科）

臨床研究を「義務的な作業」ではなく知的好奇心を満たす「創造的な探求」として捉え直す。骨粗鬆症診療は多職種リエゾンが基盤であり、各職種の疑問が研究の種となる。学会が毎年8月に開く1泊2日の合宿型セミナーでは、整形外科・内科に加え産婦人科・疫学・理学療法・生物統計の講師陣が参加型で指導する。

1-SY13-2 健診データにおける低ALPの頻度と持続低値例の特徴 — 低ホスファターゼ症（HPP）拾い上げを起点とした骨粗鬆症治療薬適正使用への検査室フロー提案

吉田 寛幸（出雲医療生活協同組合 出雲市民病院）

健診データから低ALP・持続低値例を抽出し、HPPの拾い上げを起点に骨粗鬆症治療薬の適正使用へつなぐ検査室フローを提案。（プログラム集に抄録の掲載なし）

1-SY13-3 骨粗鬆症は透析導入時に既に高頻度に認められる — 筋量低下との関連

平田 寛人（佐賀大学 医学部）

透析導入の時点ですでに骨粗鬆症が高頻度に存在することと、筋量低下との関連を検討した報告。（プログラム集に抄録の掲載なし）

1-SY13-4 骨形成促進薬投与1年後の骨密度・海綿骨構造指標への糖尿病／CKDの影響

前田 千尋（墨東病院）

骨形成促進薬1年後のBMDおよび海綿骨構造指標に対する糖尿病・慢性腎臓病の影響と、大腿骨近位部骨折術後患者におけるAMTSと術後半年間の転倒リスクとの関連の2題。（抄録の掲載なし）

1-SY13-5 GIOPに対するデノスマブ・テリパラチド・ロモソズマブの有効性の差異

雪嶋 俊孝（浜松医科大学）

多施設共同OASISコホートによる、グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症に対する3剤の有効性の差異の検証と、経口グルココルチコイドがロモソズマブの有効性に与える影響の解析。（抄録の掲載なし）